

見ていない者は、指導できない

「教師は口だけではいけない。子供と共に体をかけて働くことで初めて伝わり、教えることができる。」以前、先輩から聞いた言葉です。私は、この言葉を守り、子供と共に活動し、後ろ姿で教えることができる教師になりたいと思って努力をしていました。

教師になって9年目のことです。転任した学校で6年生を担当し、清掃時間には、子供と共に汗を流していました。すると、突然、つかつかと教頭先生がこられ、「自分の学級の子供に責任をもちなさい。子供が、どこでどんな清掃をしているかを見ていない者は指導できないよ。」と言われたのです。今まで、共に働くことを第一に考えてきた自分にしてみれば、青天の霹靂(へきれき)でした。当時、清掃活動場所は自由に子供たちが選んでいましたから、誰がどこで活動しているかは、担任として把握していました。しかし、よく考えると、活動場所を知っていることで安心していたのです。

その後、場所を移動して活動しながら子供たちの様子をよく見るようにしました。すると、自分で目当てをつくり活動場所を広げていく子供、活動のための道具を家から持ってきて成果をあげるために努力している子供、一人ではできない場所は友達を誘ってやり遂げようとする子供など、子供のいろいろな思いや願い、気持ちの変化などが、清掃活動を通して見えてくるようになったのです。当然、一人一人にかける指導の言葉は変化していきました。

共に体をかけて活動する大切さを「見ていない者は、指導できない。」という一言から学びました。